



亀中だより

No.28 令和4年10月28日 文責:岡田

For The Students!



文化祭が終わり、一週間がたちました。そして来週は11月となります。秋深まる11月ですが、“実りの秋”といわれるように、学校生活の充実も目指してほしいときです。文化祭では合唱コンクールの審査という一つの結果がありました。これまで学校行事を通して成長する生徒の姿は、たくさん見せてもらってきましたが、本当の意味での個々の成長、学級の仲間づくりの成果が見られるのは、行事の終わったあと、まさにこれからの時期です。

実りの秋…11月こそ学校生活の充実を！

本当に価値のある取り組みをしたクラスは、かりに教室の壁に「合唱コンクールの賞状」がなかったとしても、文化祭、合唱コンクールへの取り組みを通して、その後の学級の姿が変わってきます。学級内でのあいさつやありがとうなどの言葉が増える、以前はあまり話したことがなかった生徒同士でも自然に会話している姿がある、授業での学び合いが活発になる、教室が美しい、教室に来ていない生徒のことが話題になる、などなど…。



合唱コンクールの価値は、あの日の審査結果だけではありません。今の、そしてこれからの学級の姿に本当の価値があります。合唱を作り上げた仲間力を、今こそ発揮してほしいものです。

教室の壁を見ると、4月に掲げた「学級目標」があるはずですが。それは現実のものとなってきていますか。

観天望気(かんてんぼうき)

10月のある日、真っ青な秋空に一筋の飛行機雲がありました。上空に風がないせいか、消えたり、形が壊れたりすることなく、まっすぐに伸びた飛行機雲でした。「自然現象や生物の行動の様子などから天気の変化を予測すること」を**観天望気**(かんてんぼうき)といいます。「朝焼けは雨」「ネコが顔を洗うと雨」「ツバメが低く飛ぶと雨」などなど。科学的な根拠があるものも存在するようです。



さて、「飛行機雲」についてはどうでしょうか？

こんな写真を見ると、飛行機雲が残ると好天のようですが、実は飛行機雲が早く消えるほど上空の湿度が低く好天となるようです。飛行機雲がなかなか消えないのは、上空に湿った空気があり、雲ができやすい状況にあるため2、3日後に雨が降るといわれているそうです。実際この二日後は雲の多い空模様となりました。

空を眺めるにもよい季節となりました。目覚めとともに朝日を浴びることが、体内時計をリセットするためによいそうです。夜に星を眺めるもよし、夕日や朝日を見るもよし、時折、空を見上げる余裕を持ち合わせておきたいものです。